

# セーフシステム・アプローチの実践

毎年交通事故により、全世界で 130 万人以上が死亡し、さらに数百万人が重傷を負っている。道路の安全に対するセーフシステム・アプローチは、交通事故死亡者数を画期的に減らすことが可能だが、実際どのようにして導入すればよいのか。本報告書はセーフシステム・アプローチの実践に関し、過去の事例の経験に基づいたガイドを提供する。

また、本報告書は、セーフシステムの要素を用いて道路安全に対処した 17 件のケーススタディから得た教訓も提示する。このケーススタディは、成功した唯一の実践方法を示しているわけではなく、成功したセーフシステムの導入にはいずれも、国や地域の状況に沿った多様なアプローチがあること、そして強固な組織的運営とパートナー間の協力が極めて重要であることを指し示している。

セーフシステムツールにアクセス：ITF のセーフシステム実践フレームワーク内をわかりやすく案内するユーザーフレンドリーなインターフェース

ケーススタディ（PDF）を読む

- インド共和国・カルナータカ州の高速道路改良
- コロンビア共和国・ボゴタのスピード管理プログラム
- メキシコシティの若者向けビジョンゼロ
- サハラ以南のアフリカにおける SARSAI プログラム
- ポーランド共和国・マウオポルスカ県における歩行者の安全の向上
- 大韓民国・地方自治体の道路安全性能指標の評価
- Logistrans 社の道路安全への取組
- 東南アジアの国々向け新自動車評価プログラム
- ジョージアにおける緊急通報・応答の共通電話番号の導入
- モルドバ共和国における交通事故後対応能力の向上
- ニュージーランドにおけるセーフシステム評価
- ブルキナファソの Trauma-Ouaga プロジェクト
- カリフォルニア州運輸局の組織的な歩行者安全向上プログラム
- ベトナム社会主義共和国・プレイク市のスローゾーン、セーフゾーンプログラム
- カメルーン共和国における道路安全管理及び能力構築
- オランダ王国の持続可能な安全

## 政策提言

- 長期的なセーフシステムへの取組を推進する
- 有効性のデータと証拠に基づいて、セーフシステムの実践を推進する
- 管理可能な活動レベルから始めて、拡大していく

- 特に低・中所得国においては、セーフシステム・アプローチを実際に実施できる能力を構築する
- 試験的なプロジェクトを用いてセーフシステム枠組みをさらにテストし、発展させる
- 枠組みを用いて、プロジェクト、組織及び政策を評価し、ギャップを特定して効果的な戦略を練る